

8 「お不動さまと日本人—不動尊信仰について考える」

【全4回】／開催方法：ZOOM

かとう
加藤みち子

武蔵野大学
特任教授
中村元東方研究所
主任研究員



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：8月19日)

【日程・時間】【全4回】

8月23日(土) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

8月24日(日) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

「お不動さま」といえば、成田山新勝寺、東京の高幡不動、大阪の瀧谷不動、京都青蓮院の青不動など全国で広く信仰を集め、現在でも多くの日本人に親しまれています。

このお不動様が、なぜ日本でこれほど人気を集めているのか、仏教ではどのように位置づけられているのか、ということは必ずしも明確ではないように思われます。そこで本講座では不動尊信仰のはじまりを、インド・中国からひもとき、日本でとくに庶民のほとけとして親しまれていった背景と、現在へのつながりを、具体例やスライドを見ながら考えていきたいと思います。

1 時限目 インド・中国における不動尊信仰—不動尊の成立

まず、仏教経典の中での「不動尊」の位置づけからひも解いていきます。密教におけるアチャラナータの基本的な性格から、日本への不動信仰の伝播者、空海と円珍に注目し、真言宗と天台宗の相違を検討するとともに、受容者である平安貴族たちにとっての不動信仰にも目を向けていきます。

2 時限目 修験道と不動明王—山岳信仰への影響と、修験者の活躍

ここでは、不動明王が、日本の山岳信仰である「修験道」の本尊として位置づけられてゆくプロセスと、修験者の活躍によって、全国各地へと広がってゆく不動信仰の伝播についてみていきます。また、武家政権の成立と不動信仰の関わりについても紹介します。

3 時限目 成田山と不動信仰—近世における都市の不動信仰の発展

「お不動さま」の現代につながる人気の根源ともいえる、成田山の不動講。江戸時代に始まる、都市民の不動信仰から、不動信仰の庶民化をみていきます。

4 時限目 不動信仰の諸相—波切不動・水かけ不動・身代わり不動から不動尊霊場へ

波切不動・水かけ不動・身代わり不動、青赤黄白黒の五色不動など、日本で現在も親しまれる、お不動様のいろいろな姿がどのようにうみだされ、現代でも祀られ続けているのかを整理し、インドや中国にはみられない、日本独自の「不動信仰」の展開の意味を考えていきます。

【参考文献】

①『不動明王』

著者：渡辺照宏 出版社：岩波現代新書 出版年：2013

②『不動信仰』（民衆宗教史叢書第25巻）

著者：田中久雄 出版社：雄山閣 出版年：1993